

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	看護管理	単位	1	時間	30	進度	3年次前期
目的	看護専門職として、管理に関する基礎的知識や技術を修得し、看護管理上の問題を解決する方法の方法を学ぶ。						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					講師
看護における管理の方法と、施設内や地域における看護方法を学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とマネジメント               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護管理とは</li> <li>2) マネジメントとは</li> <li>3) 看護におけるマネジメント</li> </ol> </li> <li>2. 看護ケアのマネジメント               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能</li> <li>2) 患者の権利の尊重</li> <li>3) 安全管理</li> <li>4) チーム医療</li> <li>5) 看護業務の実践</li> </ol> </li> </ol> <p>テキスト: 系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理. 医学書院</p>					<p>【6/30時間】 本校専任教員(27年) (総合病院で11年の実務経験有)</p>	
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					講師
看護における管理の方法と、施設内や地域における看護方法を学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 看護サービスのマネジメント               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護サービスのマネジメント</li> <li>2) 組織目的達成マネジメント</li> <li>3) 看護サービス提供のしくみづくり</li> <li>4) 人材のマネジメント</li> <li>5) 施設・設備環境のマネジメント</li> <li>6) 情報のマネジメント</li> <li>7) 物品のマネジメント</li> <li>8) 組織におけるリスクマネジメント</li> <li>9) サービス評価</li> </ol> </li> <li>4. 看護を取り巻く諸制度</li> <li>5. マネジメントに必要な知識と技術               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 組織とマネジメント</li> <li>2) リーダーシップとマネジメント</li> <li>3) 組織の調整</li> <li>4) 組織と個人</li> </ol> </li> </ol> <p>テキスト: 系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理. 医学書院</p>					<p>【18/30時間】 看護師 認定看護管理者 (総合病院で39年の実務経験有)</p>	
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					講師
看護における管理の方法と、施設内や地域における看護方法を学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の活動領域               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際協力</li> <li>2) プライマリーヘルスケア</li> <li>3) 異文化理解</li> <li>4) 国際看護活動                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ジャイカ青年海外協力隊の研修員との交流</li> <li>(2) ワークショップ</li> <li>(3) アジア・西アフリカの衛生状況実際</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <p>テキスト: 系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学. 医学書院</p>					<p>【6/30時間】 大学講師 助産師 地域政策修士 (総合病院で39年の実務経験有)</p>	
<p>テキスト: 系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理. 医学書院            系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学. 医学書院            系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論. 医学書院</p> <p>参考書: 看護学基礎テキスト全4巻. 日本看護協会出版会</p>							

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	医療安全	単位	1	時間	30	進度	3年次前期
目的	日常の看護において危険を予測し、看護・医療事故予防の技術とシステムについて知識を深め、安全に看護実践ができる能力を養う						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					講師
人は誰でも事故を起こす存在であることが理解できる		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全を学ぶことの大切さ               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)医療安全の定義</li> <li>2)安全の言葉の定義</li> <li>3)ヒューマンエラー</li> </ol> </li> </ol>					
対象の状況と場に応じて安全な看護を提供するためにリスクを判断する必要性を理解する		<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 事故の分析と対策の検討               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)インシデントとアクシデント</li> <li>2)KYTとは</li> </ol> </li> <li>3. 事例を用いた臨床想定訓練 シミュレーション:事故発生の模擬体験 (演習)</li> </ol>					
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標		授業内容					講師
医療現場における危険要因を理解する		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.医療事故と看護業務 医療事故とは</li> <li>2.看護事故の構造と分類               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)看護事故の構造</li> <li>2)インシデント・アクシデント報告書</li> <li>3)事故の分類</li> <li>4)ヒューマンエラー防止対策</li> </ol> </li> </ol>					
医療現場における専門職としての責任と倫理的判断の必要性について理解する(医療安全対策)		<ol style="list-style-type: none"> <li>3.医療安全に関する看護職の法的責任</li> <li>4.医療安全に関する看護倫理</li> <li>5.医療安全とコミュニケーション               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因</li> <li>2)医療事故防止のための対象とのコミュニケーション</li> <li>3)事故の未然防止上重要なコミュニケーション</li> </ol> </li> <li>6.医療における事故防止体制の構築・システムの改善               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)組織としての医療安全対策の意義</li> <li>2)システムとしての事故防止の具体例</li> <li>3)国の医療安全対策</li> </ol> </li> </ol>					
テキスト:系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全, 医学書院 参考書:医療安全ワークブック, 医学書院 医療安全に活かすKYT, メジカルフレンド社							

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	救急医療	単位	1	時間	15	進度	3年次前期
目的	急病、けが、災害など急に身体の疾患または損傷を受けた救急患者への救急処置、医療行為の介助、生活行動援助、精神的サポートなどの看護活動と位置づけを学び看護実践につなげる						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・実技試験				講師
学習目標	授業内容						看護師 (病院で21年、介護施設で8年の実務経験有)
救急医療と救急看護の基礎を理解する	1.救急看護の概念 1)救急看護とは 2)救急医療体制 3)救急看護の場  2.救急看護の対象の理解 1)救急患者の特徴 2)救急患者家族の特徴  3.救急看護体制 1)初期・第二次救急医療における対応 2)第三次救急医療における対応						
救急時に安全に医療機器を取り扱うことができる	4.医療用器械の取り扱い 1)ME機器とは 2)ME機器を使用するための基礎知識 3)ME機器取り扱い上の留意事項						
主要病態に対する救急処置と看護を理解する	4.救急患者の観察とアセスメント 1)全身と外見の観察とアセスメント 2)緊急検査  5.心肺停止状態への対応 1)一次救命処置 2)二次救命処置  6.外傷・熱傷・骨折・中毒・溺水への対応  7.事例を用いた緊急時の対応の実際						
テキスト:系統看護講座 別巻 救急看護学. 医学書院 参考書:系統看護講座 基礎看護学[4] 臨床看護学総論. 医学書院 成人看護学 成人看護技術. 南江堂							

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	単位	4	時間	90
科目	災害看護	単位	1	時間	15	進度	3年次前期
目的	災害は予期しない時に大きな破壊を突然もたらし、人々の生命の危機と健康の破壊、生活基盤の崩壊をもたらす。災害が発生した場合、看護職は誰もが災害看護活動に参加する可能性を持っているため、看護基礎教育において災害看護を学ぶ						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				
学習目標	授業内容						講師
災害看護の全体を理解し、災害時の看護の基礎的知識を身につける	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護のあゆみ</li> <li>2. 災害医療の基礎知識               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 災害の定義</li> <li>2) 災害の種類と健康障害</li> <li>3) 災害医療の特徴</li> <li>4) 災害と情報</li> <li>5) 国内の救援活動の現状と課題</li> </ol> </li> <li>3. 災害看護の基礎知識               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 災害看護の定義と役割</li> <li>2) 災害看護の対象</li> <li>3) 災害看護の特徴と看護活動</li> </ol> </li> <li>4. 災害サイクルに応じた活動現場での災害看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急性期・亜急性期                   <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) トリアージ</li> <li>(2) 応急処置</li> </ol> </li> <li>2) 慢性期・復興期</li> <li>3) 静穏期</li> </ol> </li> <li>5. 災害とところのケア</li> <li>6. 事例における災害看護活動</li> </ol>						看護師 (総合病院で24年の実務経験有)
テキスト: 系統看護講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学. 医学書院 参考書: 系統看護講座 別巻 救急看護学. 医学書院							

# 統合分野

## 【 看護の統合と実践 実習 】 2単位 90時間 3年次後期

### 1. 実習の目的

病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、チーム医療の一員として安全に看護実践できる能力を養う

### 2. 実習目標

- 1) 病棟管理の実際や他部門調整等の見学を通して看護管理の実際を学ぶ
- 2) 組織として安全で質の高い看護がどのように提供されているかを理解する
- 3) 対象に潜む医療事故の危険因子を総合的にアセスメントし、援助の優先度を考えながら状況に応じた看護実践ができる
- 4) チーム医療における他職種との協働の中で看護師の役割を理解する
- 5) 専門職としてふさわしい態度を身につける

### 3. 実習方法

日程	内 容	記録用紙
前日	事前学習 1週間の計画案記入	事前学習・実習目標提出(学内) 共通記録用紙No.1 No.2
1日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護部長から、病院管理の体制や他部門との調整方法について全体オリエンテーションを受ける</li> <li>・医療安全における医療安全管理者の役割についてオリエンテーションを受ける</li> <li>・病棟師長から、オリエンテーションを受ける</li> <li>・看護師長に同行し、実際の場面を見学し、管理職の役割を学ぶ</li> </ul>	管理・医療安全は統合記録用紙No.6-①・No.6-②に記入
9日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の対象を受け持ち看護援助を展開する</li> <li>・受け持ち対象の紹介、情報収集開始</li> <li>・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら優先順位を決定する</li> <li>・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する</li> <li>・援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する</li> <li>・受け持ちの中から一人の対象を選定し看護要約を作成する</li> <li>*援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する</li> </ul>	共通記録のデータベース用紙にて情報収集 病棟の看護問題を参考に、現在の対象の状態に応じた問題点を抽出し、看護援助計画を立案 共通記録用紙No.5に記入 フローチャート統合記録用紙No.4にて経過観察・援助を記載 看護要約統合記録用紙No.5 他患者も含めて援助の実際はNo.8に記載
夜間実習 事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前に、夜間体制や業務内容のオリエンテーションを受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち対象に関してはフローチャート統合記録用紙No.4にて経過観察・援助の実際記載</li> <li>・夜間実習での学びをNo.6-②に記載</li> </ul>
夜間実習 2日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間実習時間 16:00～翌日9:00(仮眠含む)</li> <li>・勤務交替時の申し送りを受ける。</li> <li>・夜間の対象の状態を把握する。(受け持ち優先)</li> <li>・夜間を通して業務内容の実施や、受け持ち対象の看護援助を展開する</li> <li>・勤務交替時の申し送りを行なう。(受け持ち優先)</li> </ul>	
6日目	中間評価	評価表提出
登校日	学校にて実習の振り返り 週間計画の立案	
最終日	最終評価	評価表提出

対象への説明書・同意書は学生が同じ対象を受け持つときは連名とする

共通記録用紙No.1・No.2・No.3(データベースのみ) No.5・No.8・No.9 使用統合専用記録用紙No.4～6 使用

最終提出は、No.順にそろえて、最後に評価表を添付して提出すること

### 4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

### 5. 提出について

- 1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
- 2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

### 6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価  
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準  
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	在宅看護論	単位	4	時間	90
科目	在宅看護論(在宅看護の理解)	単位	1	時間	15	進度	1年次後期
目的	保健・医療・福祉ケアシステムの中での在宅看護の位置づけを理解し、在宅における看護職の役割を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						本校専任教員(3年) (他看護専門学校で専任教員6年、総合病院で8年、病院で2年、訪問看護ステーション等で21年の実務経験有)
在宅看護が必要とされる背景と根拠を理解する	1.在宅看護の概念 1)在宅看護の目指すもの 2)保健・医療・福祉の動向と訪問看護 3)超高齢化社会の進展と地域連携のシステム 4)医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 5)在宅看護における看護師の倫理(訪問看護倫理綱領を含む)						
在宅看護の対象者を理解する	2.在宅療養者と家族の支援 1)在宅看護の対象者の特徴 2)在宅看護の対象者としての家族 3)家族看護アセスメント						
在宅看護の提供方法を理解する	3.在宅看護の制度 1)訪問看護制度の創設と発展経緯 2)ケアマネジメントの概念と機能 3)介護保険制度 4)訪問看護制度  4.世界の訪問看護活動の動向						
テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	在宅看護論	単位	4	時間	90
科目	在宅看護方法論Ⅰ (在宅看護技術)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	療養者の日常生活から必要とされる看護支援を見極めるための動作分析と在宅で求められる医療技術と看護を学ぶ						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				
学習目標	授業内容						講師
在宅の場での療養者理解と援助関係形成を理解する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活すること”を支える技術                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーション</li> <li>2) 動作分析</li> </ol> </li> <li>2. 在宅で求められる技術の応用                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸器に関する技術</li> <li>2) 食生活・嚥下に関する技術</li> <li>3) 排泄に関する技術</li> <li>4) 移動・移乗に関する看護</li> <li>5) 清潔に関する技術</li> <li>6) 認知機能のアセスメント法と援助技術</li> <li>7) 終末期看護</li> </ol> </li> <li>3. 在宅での医療技術                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 褥瘡</li> <li>2) 尿道留置カテーテル</li> <li>3) ストーマ(人工肛門・人工膀胱)</li> <li>4) 経管栄養</li> <li>5) 在宅中心静脈栄養法(HPN)</li> <li>6) 非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)</li> <li>7) 在宅酸素療法(HOT)</li> <li>8) 人工呼吸療法(HMV)と排痰法</li> <li>9) 疼痛管理</li> </ol> </li> </ol>						本校専任教員(3年) (他看護専門学校で専任教員6年、総合病院で8年、病院で2年、訪問看護ステーション等で21年の実務経験有)
在宅で求められる技術を理解する							
テキスト: 系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書: 適宜関係図書紹介 資料配布							

## 統合分野

分野	統合分野	教育内容	在宅看護論	単位	4	時間	90
科目	在宅看護方法論Ⅱ(地域連携)	単位	1	時間	15	進度	2年次前期
目的	保健・医療・福祉との連携とマネジメントの必要性を理解し、対象のニーズに基づく生活支援方法及び社会資源の活用方法を理解する						
方法	講義	評価方法	筆記試験・レポート				
学習目標	授業内容						講師
保健・医療・福祉との在宅看護の連携活動について理解する	<p>1.他職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)在宅における連携の特徴</li> <li>2)医師との連携</li> <li>3)介護保険の社会資源との連携</li> <li>4)その他の社会資源との連携</li> <li>5)ネットワークづくり</li> <li>6)入退院時における医療機関と訪問看護の連携</li> </ul>						本校専任教員(3年) (他看護専門学校で専任教員6年、総合病院で8年、病院で2年、訪問看護ステーション等で21年の実務経験有)
対象のニーズに基づく生活支援方法と社会資源の方法を理解する	<p>2.在宅看護における安全性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)在宅看護におけるリスク</li> <li>2)医療事故防止</li> <li>3)感染防止</li> <li>4)療養生活上の安全確保</li> <li>5)災害時の在宅看護</li> </ul> <p>3.対象者の権利保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)個人の尊厳</li> <li>2)自己決定権</li> <li>3)個人情報の保護</li> <li>4)情報の開示</li> <li>5)成年後見</li> <li>6)虐待</li> <li>7)在宅看護における法律問題の事例</li> </ul>						
テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布							



# 統合分野

分野	統合分野	教育内容	在宅看護論	単位	4	時間	90
科目	在宅看護方法論Ⅲ (在宅看護活動)	単位	1	時間	30	進度	2年次前期
目的	在宅看護活動の実践例から多様な対象への看護を理解する						
方法	講義・演習	評価方法	筆記試験・レポート				講師
学習目標	授業内容						
在宅看護における看護過程の展開方法を理解する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.在宅看護過程展開のポイント               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)対象者の多様化の尊重</li> <li>2)環境・家族への視点</li> <li>3)時間的な広がりへの着目</li> <li>4)生活を支える制度と支援体制の理解</li> </ol> </li> <li>2.在宅看護過程               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)特徴</li> <li>2)情報収集とアセスメント</li> <li>3)目標・計画</li> <li>4)実施と評価</li> <li>5)標準化に向けた取り組み</li> </ol> </li> </ol>						<p>【18/30時間】 保健師 (診療所で9年、訪問看護ステーション等で24年の実務経験有)</p> <p>【2/30時間】 看護師 (病院で13年、訪問看護ステーションで6年の実務経験有)</p>
対象に応じた在宅看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> <li>3.介入時期別の特徴               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)準備期</li> <li>2)移行期</li> <li>3)安定期</li> <li>4)急性憎悪期</li> <li>5)終末期</li> <li>6)終了期</li> </ol> </li> <li>4.在宅看護活動の実践例               <ol style="list-style-type: none"> <li>1)脳卒中</li> <li>2)パーキンソン病</li> <li>3)認知症</li> <li>4)小児療養者</li> <li>5)筋委縮性側索硬化症</li> <li>6)慢性閉塞性肺疾患</li> <li>7)独居の療養者</li> <li>8)終末期の療養者</li> <li>9)統合失調症の療養者</li> </ol> </li> </ol>						<p>【10/30時間】 看護師 (病院24年、訪問看護ステーションで12年の実務経験有)</p>
テキスト:系統看護講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院 参考書:適宜関係図書紹介 資料配布 在宅看護論. 医歯薬出版株式会社							

# 統合分野

## 【 在宅看護論実習 】 2単位 90時間 3年次

### 1. 実習の目的

目的：保健・医療・福祉との連携・共働を通して、看護の役割を理解する  
地域で看護を必要としているあらゆるライフステージ・あらゆる健康レベルにある人々とその家族に対して、現状の生活を踏まえた看護援助が出来る基礎的能力を養う

### 2. 実習目標

- 1) 地域保健事業の実際が理解できる
- 2) 社会情勢を反映した支援事業活動が理解できる
- 3) 在宅療養者とその家族を生活者として総合的に理解できる
- 4) 対象・家族のニーズを考慮した看護援助が理解できる
- 5) 専門職業人としての基本的態度を含め看護観を深め

### 3. 実習方法

日 程	内 容	記録用紙	
事前Ⅰ	学内：①実習課題確認 ②講義資料の見直し	実習課題 事前学習課題	講義資料
1日	1) 県北保健福祉事務所・精神保健福祉センター 概要説明・見学・GW等 (事後学習)		共通記録No.9
1日	2) 保健福祉センター 概要説明・見学・健康推進事業・GW等 (事後学習)		共通記録No.9
1日	3) 地域包括支援センター(福島市/伊達市) 概要説明・相談業務・地域健康推進事業・ GW等(事後学習)		共通記録No.9
1日	4) 居宅介護支事業所 概要説明・相談業務(要介護者)・社会資源の 実際・GW等(事後学習)		共通記録No.9
事前Ⅱ	学内：①訪問看護ステーション実習課題確認	実習課題	講義資料
8日	オリエンテーション 同行訪問 在宅調整会議などの参加 *訪問対象についての意見交換(カンファレンス) *1事例挙げて、自らの考えをまとめる 反省会(最終評価)		共通記録No.1 共通記録No.2 在宅記録No.3-①と② 共通記録No.4・5・6 在宅看護論実習評価 ※中間はありません 共通記録No.9

※1)～4)の事後課題は、各実習毎に関心の高かった項目についてまとめ共通記録No.9提出とする

### 4. 実習中の注意事項

- 1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
- 2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
- 3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
- 4) 決められた服装で実習に臨む
- 5) 時間厳守
- 6) グループでの行動を意識して協力する

### 5. 提出について

- 1) ①～④終了後、指定された日時に No.9 を提出する
- 2) 指定された実習記録一式を上記の表の順に整理しファイルに入れて提出
- 3) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

### 6. 単位修得の認定

- 1) 成績の評価  
実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
- 2) 成績評価の基準  
実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。